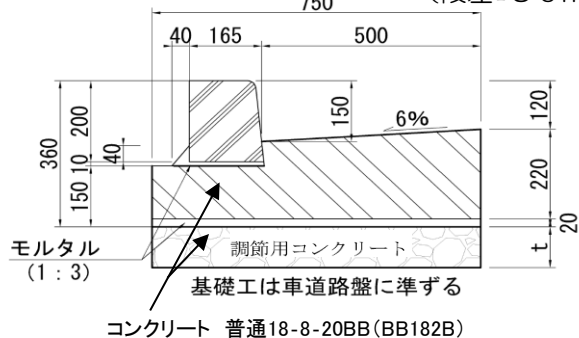


街 き よ

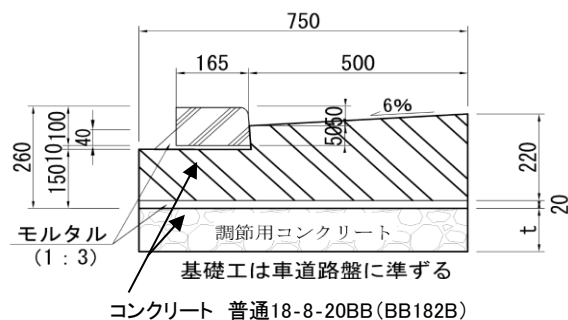
街きよ (155型 一般部)

(段差15 cm)



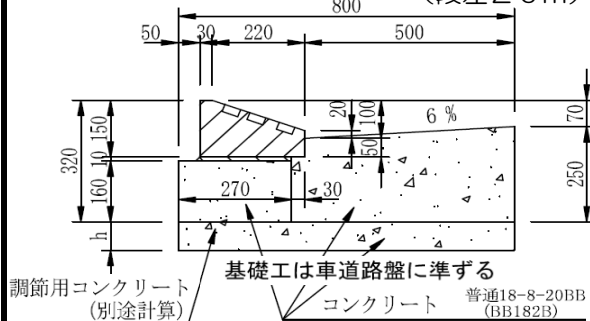
街きよ (155型 乗入部)

(段差5 cm)



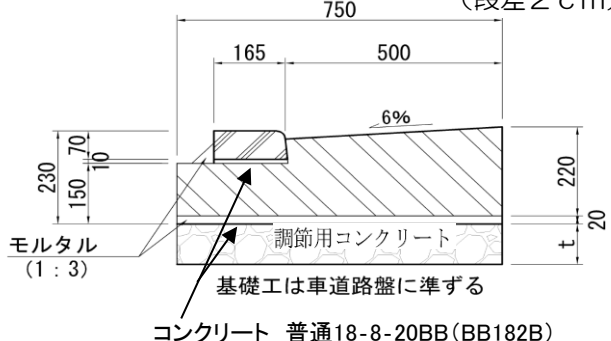
街きよ (155-1型 乗入部)

(段差2 cm)



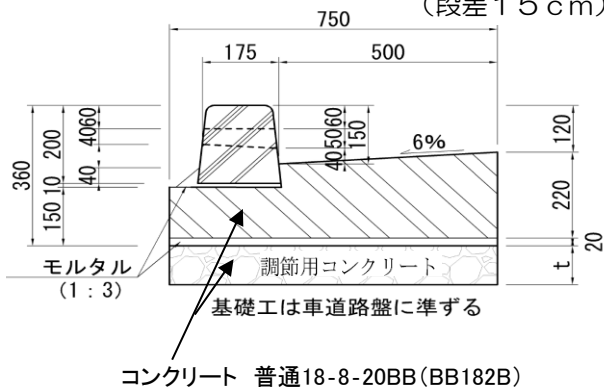
街きよ (155型 乗入部)

(段差2 cm)



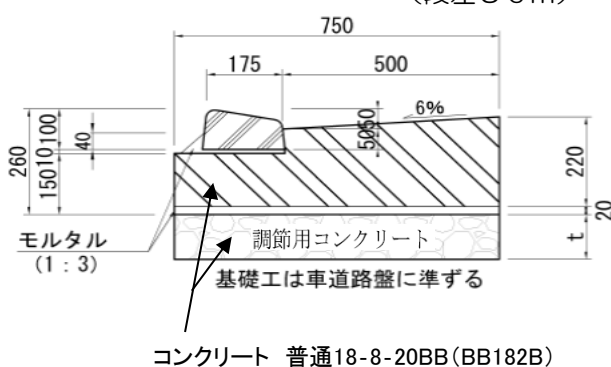
街きよ (155SF型 一般部)

(段差15 cm)



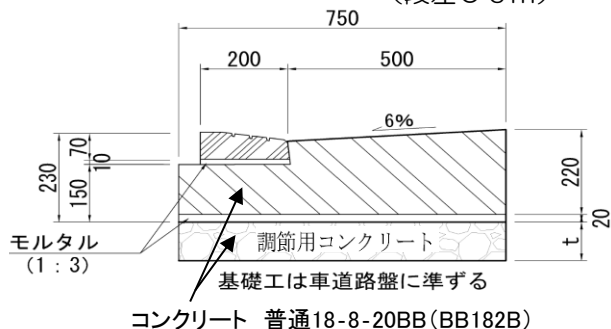
街きよ (155SF型 乗入部)

(段差5 cm)

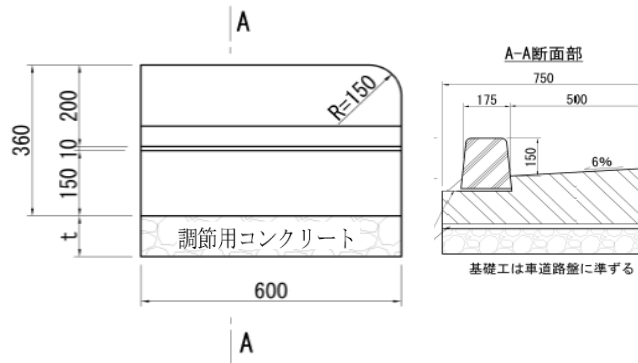


街きよ (155SF型 横断部)

(段差0 cm)



街きよ (155SF型 端部)

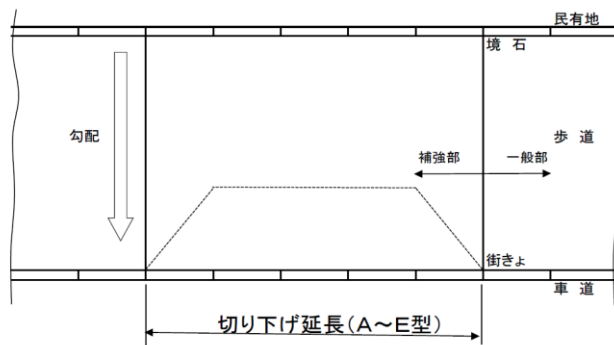


- 注 1. 各ブロックの間には、目地モルタルを施すこと
2. エプロンブロックは、すべり止め加工タイプを使用すること

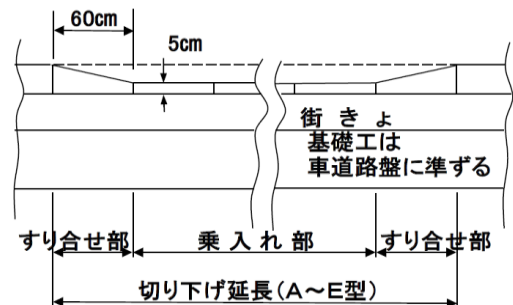
歩道切り下げ部(平面図・正面図)

(1)街きょブロック155型の場合

平面図

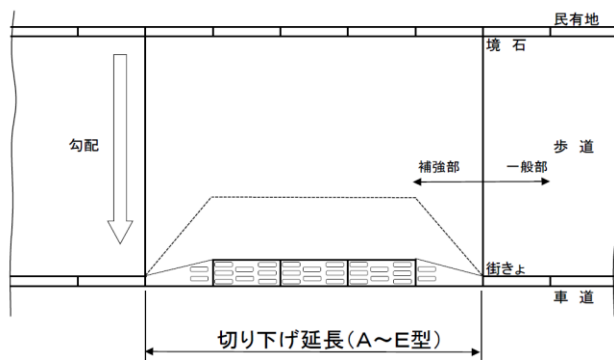


正面図

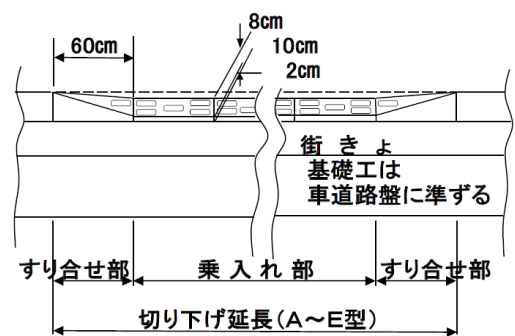


(2)街きょブロック155-1型の場合

平面図

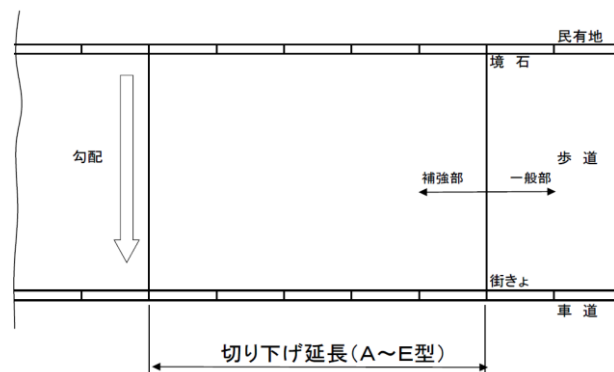


正面図

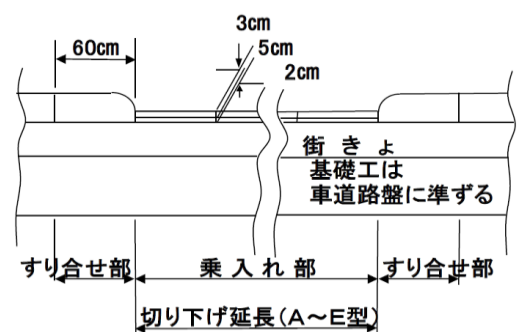


(3)街きょブロック155セミフラット型の場合

平面図



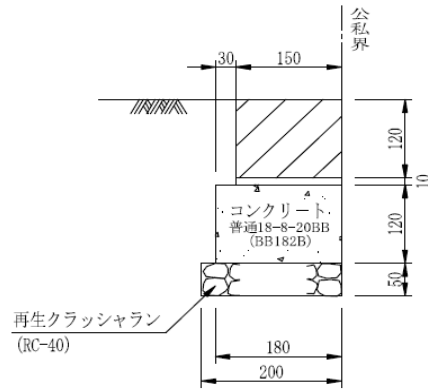
正面図



形 式	切り下げ 延長(cm)	収 容 施 設 の 種 別 (参 考)
A 型	303	軽自動車を収容する施設(例 軽自動車)
B 型	424	小型乗用車(8の一部及び4, 5, 6ナンバー)及び普通乗用車(3ナンバーの一部)を収容する施設(例 普通乗用車)
C 型	545	小型乗用車(8の一部及び4, 5, 6ナンバー)及び普通乗用車(3ナンバーの一部)を収容する施設で前面道路が狭い場合(例 2t~4tトラック)
D 型	727	普通乗用車(3, 8ナンバーの一部及び1, 2ナンバー)を収容する施設(例 大型トラック)
E 型	—	特殊な場合

境 石 工

境石工(一般部)



(注)各ブロックの間には、目地モルタルを施すこと。

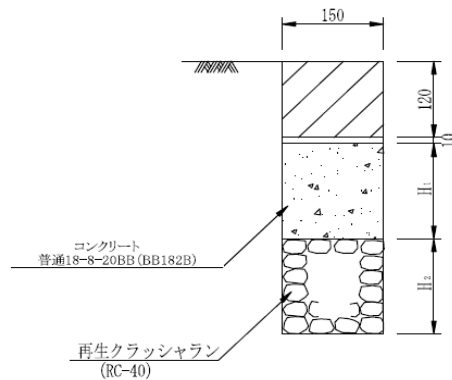
材 料 表

(100m当り)

品 名	形 状 寸 法	単 位	数 量	摘 要
再生クラッシュラン	RC-40	m³	1.0	
コンクリート	普通18-8-20BB (BB182B)	//	2.2	
モ ル タ ル	1 : 3	//	0.2	
コンクリートブロック	150×120×600	本	165.0	
型 枠		m²	24.0	

(注) 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。

境石工(歩道乗入部)



(注)各ブロックの間には、目地モルタルを施すこと。

寸 法 材 料 表

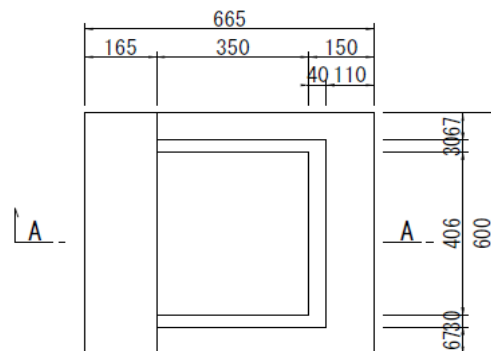
(100m当り)

品 名 種 別	コンクリート 普通18-8-20BB (BB182B)		再生クラッシュラン (RC-40)		コンクリート ブロック (本)	型 枠 (m²)	モルタル 1 : 3 (m³)
	H ₁ (cm)	使用量 (m³)	H ₂ (cm)	使用量 (m³)			
A 型	15	2.3	15	2.3	165	30	0.2
B 型	15	2.3	15	2.3	165	30	0.2
C 型	15	2.3	15	2.3	165	30	0.2
D 型	20	3.0	20	3.0	165	40	0.2

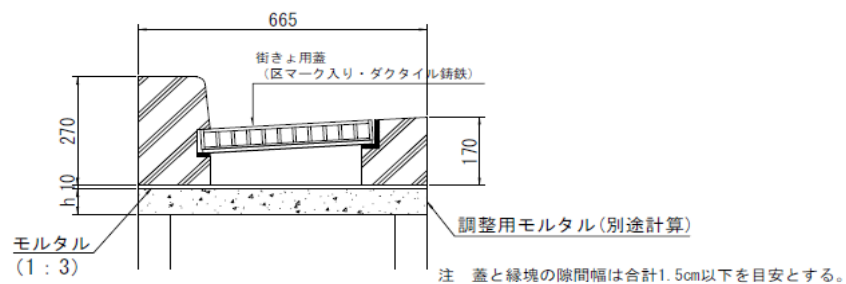
(注) 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。

街きょ用集水枡上部改修(155-1型)

平面図

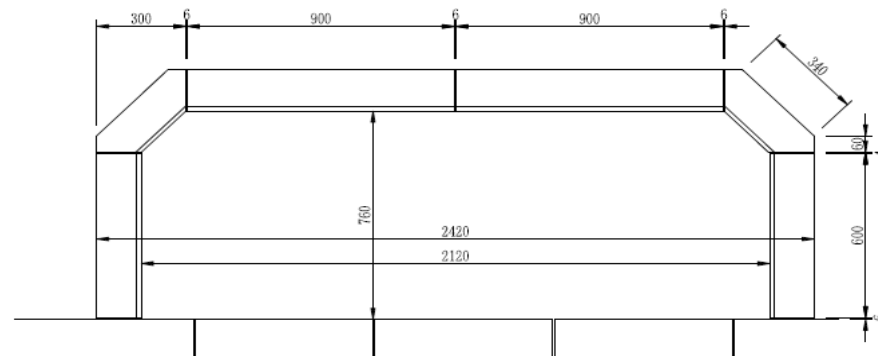


断面図[A-A]

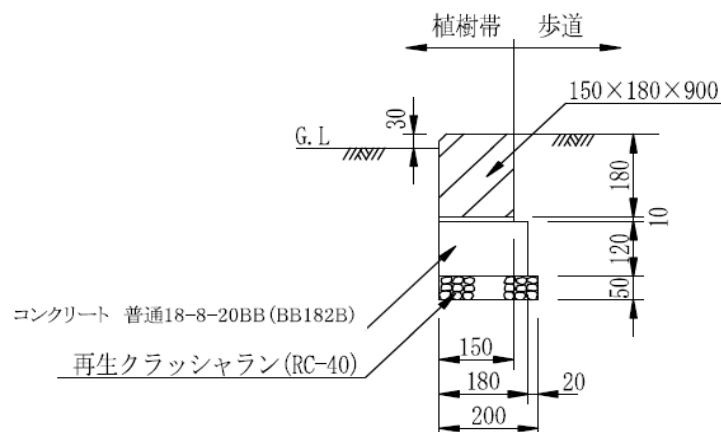


植樹枡(T1型)

平面図

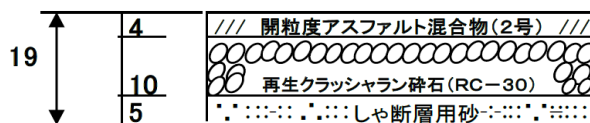


断面図

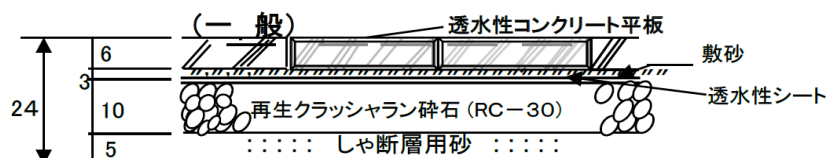


歩道舗装(一般部)

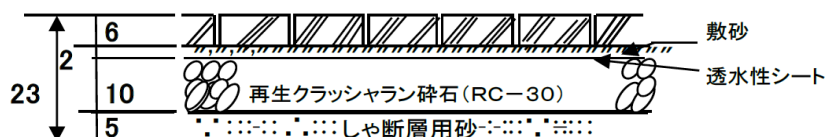
アスファルトコンクリート舗装(19型)



コンクリート平板舗装(24型)



インターロッキングブロック舗装(23型)



表層材料名 区 分 名 称		開粒度アスファルト混合物2号		コンクリート平板		インターロッキングブロック	
		区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅰ	区分Ⅰ	区分Ⅱ	
表 層 工		4	4	透水性コン クリート 6 平板	透水性イン ターロッキ ングブロック 6	透水性イン ターロッキ ングブロック 8	
				敷砂 3	敷砂 2	敷砂 2	
透水性シートの使用		－	－	使用	使用	使用	
路 盤 工	RC-30 またはC-30 (cm) ※	10	15	10	10	15	
フィルター層 しゃ断層用砂		(5)	(5)	(5)	(5)	(5)	
舗装合計厚 (cm)		14 (19)	19 (24)	19 (24)	18 (23)	25 (30)	

ここで、 RC-30 : 再生クラッシャラン
C-30 : クラッシャラン

(1) 透水性シートは、60g/m²を標準とする。

区分Ⅰ・・・歩道や自転車道で、専ら歩行者および自転車の通行を想定した場合。

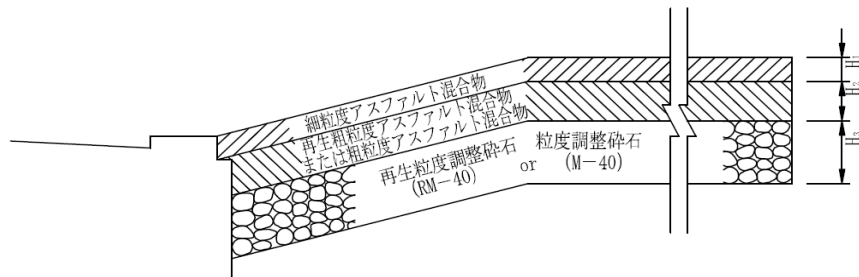
区分Ⅱ・・・公園や商店街の歩行者系道路で、歩行者や自転車以外に
管理用車輛や限定された一般車輛の通行を想定した場合。

※ 原則として、再生材を使用する。

ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

歩道の車乗入れ部舗装構造

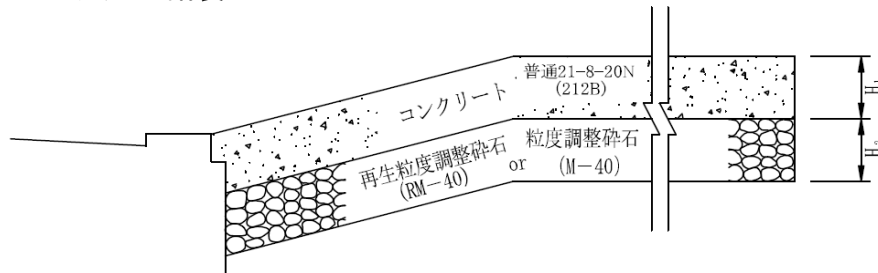
アスファルトコンクリート舗装



名 称	使用材料名	A、B、C 型	D 型	注意事項
		舗装厚	舗装厚	
表層工	細粒度アスファルト混合物	5	5	タックコート工 (必要に応じて)
基層工	再生粗粒度アスファルト混合物 または粗粒度アスファルト混合物	—	10	プライムコート工
路盤工	再生粗粒度調整碎石 (RM-40) または 粗粒度調整碎石 (M-40)	30	35	
路 床				路床転圧工

1. 歩道幅員が2.50m未満の場合も本表に準ずる。
2. E型の舗装は、特殊なものとし原則的には設置しない。やむを得ず使用の場合は別途指示するものとする。
3. 路盤上には、アスファルト乳剤（PK-3） 1.2 l/m^2 を使用する。
4. 基層上には、必要に応じてタックコートを使用する。
5. 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。
6. 原則として再生材を使用する。
ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

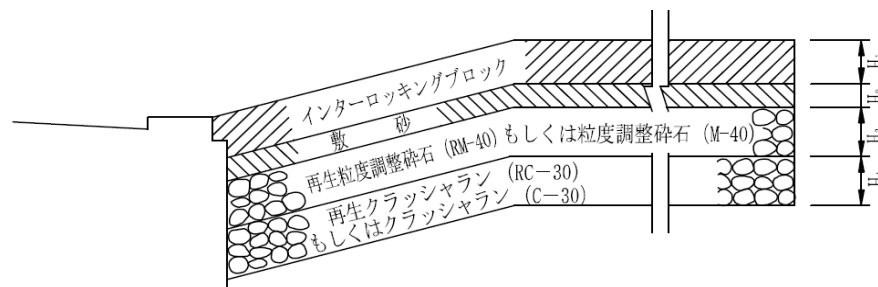
コンクリート舗装



名 称	使用材料名	A、B、C 型	D 型	注意事項
		舗装厚	舗装厚	
表層工	コンクリート 普通21-8-20N (212B)	15	20	プライムコート
路盤工	再生粗粒度調整碎石 (RM-40) または 粗粒度調整碎石 (M-40)	15	20	
路 床				路床転圧工

1. 歩道幅員が2.50m未満の場合も本表に準ずる。
2. E型の舗装は、特殊なものとし原則的には設置しない。やむを得ず使用の場合は別途指示するものとする。
3. 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。
4. 原則として再生材を使用する。
ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

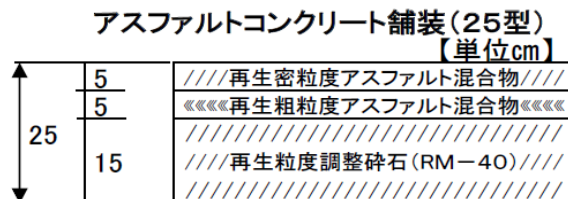
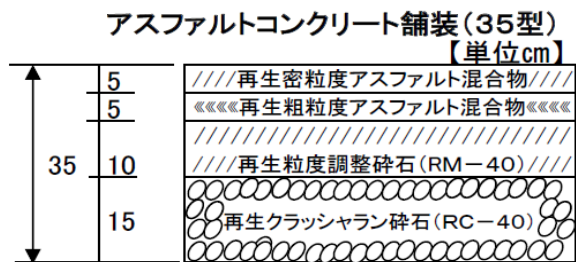
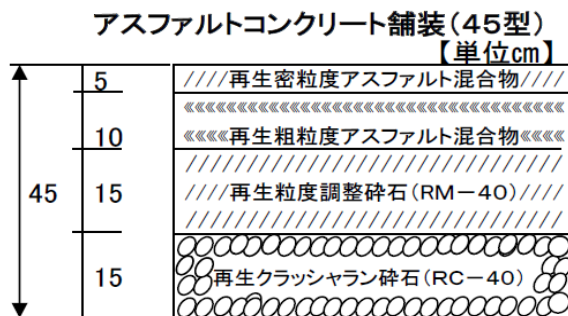
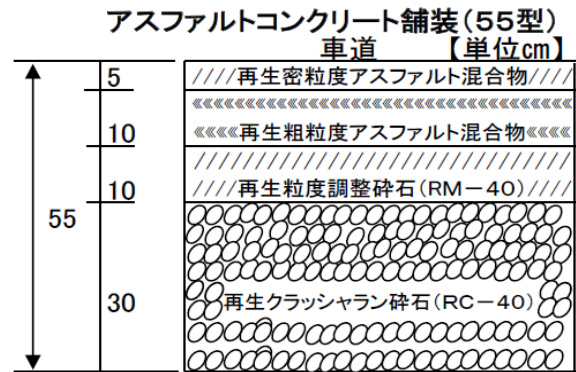
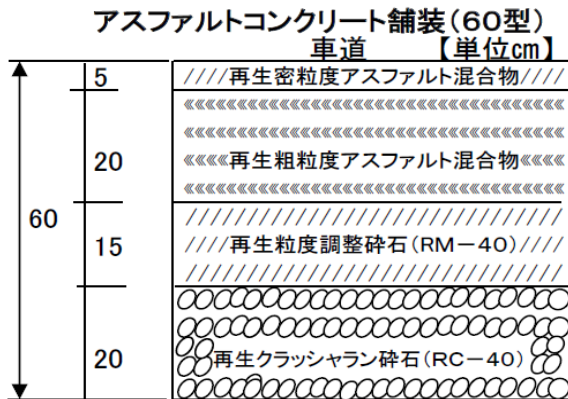
乗入れ舗装30・35型（インターロッキングブロック・コンクリート平板舗装）



名 称	使用材料名	A、B、C 型	D 型	注意事項
		舗装厚	舗装厚	
表層工	インターロッキングブロック	8	8	
サンド クッション	敷砂	2	2	
路盤工	再生粗粒度調整碎石 (RM-40) または粗粒度調整碎石 (M-40)	10	10	
	再生粗粒度調整碎石 (RC-30) または粗粒度調整碎石 (C-30)	10	15	
路 床				路 床 転 圧 工

1. 歩道幅員が2.50m未満の場合も本表に準ずる。
2. E型の舗装は、特殊なものとし原則的には設置しない。やむを得ず使用の場合は別途指示するものとする。
3. 表面はハケ引き仕上げとする。
4. 路盤上には、アスファルト乳剤（PK-3） 1.2 l/m^2 を使用する。
5. 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。
6. 原則として再生材を使用する。
ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

アスファルトコンクリート舗装(車道)



名 称	使用材料名 (原則として再生材を使用する。)	区車道舗装種別 (型)										注意事項
		舗装版のみ打替え (*2)				標準構造						
		5	10	15	25	25	35	45	55	60		
表 層 工	再生密粒度アスファルト混合物 (*1)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	↓ タックコート工	
基 層 工	再生粗粒度アスファルト混合物	－	5	10	20	5	5	10	10	20	↓ ブライムコート工	
上層路盤工	再生粒度調整砕石 (RM-40)	－	－	－	－	15	10	15	10	15	1層仕上げ厚：15cm以下	
下層路盤工	再生クラッシャラン (RC-40)	－	－	－	－	－	15	15	30	20	1層仕上げ厚：20cm以下	
舗装合計厚 (cm)		5	10	15	25	25	35	45	55	60		

■ブライムコート工: アスファルト乳剤 (PK-3) 1.2L/㎡を標準とする。

■タックコート工: アスファルト乳剤 (PK-4) 0.3~0.6L/㎡を標準とする。

・交通開放する場合

切削打替、オーバーレイなどで切削面や既設路面上に舗設する場合: 0.6L/㎡を標準とする。

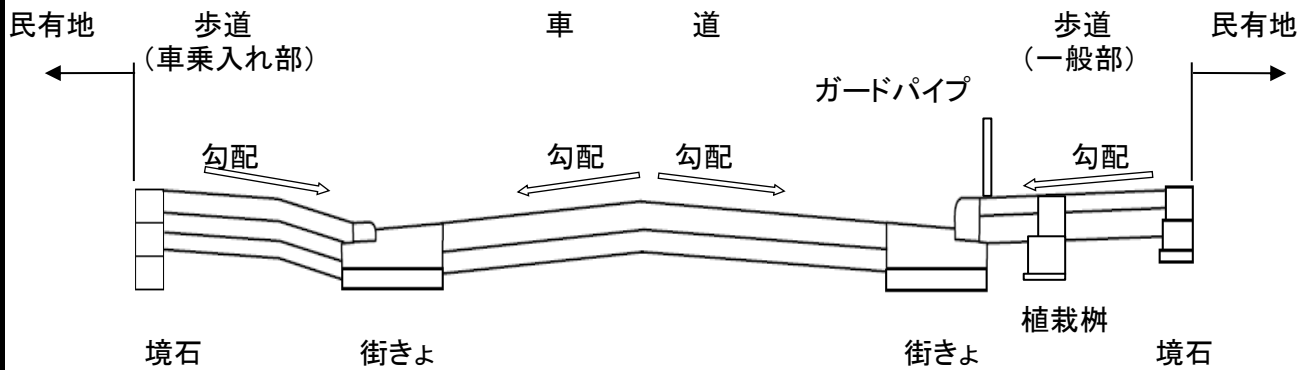
・汚さず数日後に表層を舗設する場合: 0.3L/㎡を標準とする。

・アスファルト層を同日に連続舗設する場合: 乳剤散布無し

(*1) 耐流動性が求められる箇所については、改質アスファルトを使用することができる。

(*2) 不陸整正は、補足材の有無にかかわらず路盤の敷き均し転圧を行うこと。

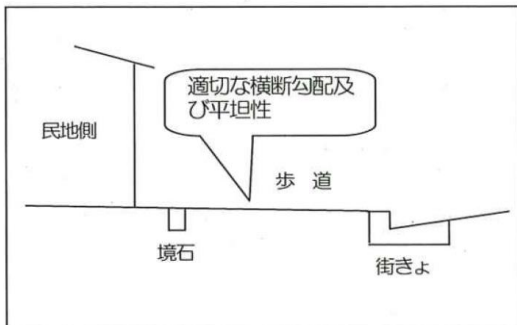
道路標準断面図



舗装復旧を行う際の注意点

良い施工例

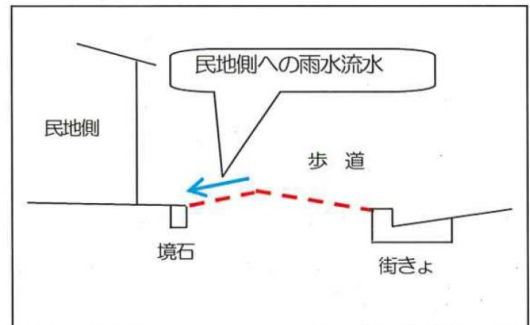
適切な横断勾配及び平坦性



悪い施工例 (1) ~ (2)

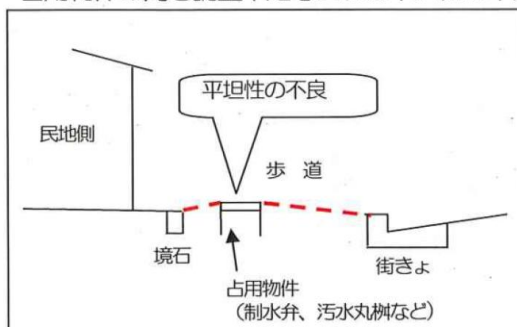
(1) 雨水流水の発生原因

横断勾配が逆勾配による民地側への雨水流水



(2) 平坦性不良の発生原因

占用物件の高さ調整不足等による平坦性の不良



(その他注意点)

ア 境石及び街きよの舗装すり付けは、L形側溝の舗装すり付けと同様に段差、たわみ、飛散等が発生しないように注意して施工すること。

イ ガードレール・ガードパイプ等の道路附属物を一時撤去・復旧した場合は、ボルトの緩みがないか及び向きが正しいかを必ず確認すること。